

FDMY@NAGOYA(4th)

-Report for Insiders-



第四回防災ユースフォーラム
実施結果報告書 ver. 内輪向け
(2006/9/16-18)

0. はじめに

倉田@防災ユース幹事です。

第四回ユースフォーラム、終了しました。
ご参加下さった皆様、ご講演いただいた皆様、運営スタッフ各位、そして生暖かく見守ってくれたすべての人に感謝いたします。

この報告書は、速報・ドラフト的な位置づけの下、Ver. 内輪向けとしてリリースします。
そもそも報告書というのは、誰が、いつ、誰に、何を報告するのかで内容が変化します。
今回は、とりあえず"第四回に参加した人、参加しなかったけど参加できなかった人"に向けて、こんな感じでしたと雰囲気・余韻を味わっていただければ"と思い、取り急ぎまとめるモノです。

以下の点にご注意下さい。

- ・ユースとして、大人世界に広くリリースする意図ではない
- ・よって、基本的に再配布、複写複製、改変等をご遠慮下さい
- ・正式なリリース（オフィシャル版）は、後日作成予定です
- ・↑ひろしくん宜しく
- ・誤字脱字は入ルーフ
- ・不適切な表現、写真、人物などが発見された場合はご報告を

今回内輪向けと云うことで、ユースのコンセプト等、基礎的な内容はネグレクトしてあります。それらが良く飲み込めていない方は、基調講演の項や付録のパンフレット等を参照ください。

役目を終えて朽ち果てる倉田→



もくじ

0. はじめに	…2
(もくじ)	…3
＜16日セッション＞	
1. オープニングセッション	…4
(アイスブレイク担当：渡邊氏)	
2. 基調講演「防災ユースのこれまでと今後」	…5
(災害救援ボランティア推進委員会学生ネット 岩崎氏)	
3. 「遊んで学ぶ・建築防災と建物耐震化」	…7
(名古屋大学大学院 福和研究室大学院生)	
4. 「震災シミュレーションゲーム ～帰宅困難者編～」	…9
(名古屋大学 震災ガーディアンズ)	
＜17日セッション＞	
5. 「新潟における取り組みと現状」	…10
(新潟大学 震災ボランティア本部「ボラんち。」)	
6. 「防災と社会福祉の考え方」	…13
(NPO東京いのちのポータルサイト 蓮本氏)	
7. 「静岡の防災の歩みと行政・大学・学生の連携」	…16
(静岡大学 学生防災ネットワーク 横幕女史)	
8. クロージングセッション	…17
＜18日オプションツアー＞	
9. 愛知工業大学地域防災研究センター見学	…18
10. おとがき ～倉田の所感、雑感～	…19
＜付録＞	
付録1. 当日配布パンフレット	
付録2. クロージングセッションPPT	

1. オープニング

歴代のオープニングの中でもなかなか良かったと思います。特に、遅刻がなかったのが良かった…

この「アイズブレイク」という技は、出来る人にしかできないことで、渡邊さんだからこんなに上手に出来たんだと思っています。渡邊さんと、適材適所な俺、グッジョブ。主催者としては、参加者の川を確認できて良かった。というか参加者に恵まれました。マジで。



ハッセル渡邊



今回は大変華やかです



菅さん川が素晴らしい

2. 基調講演「防災ユースのこれまでと今後の

基調講演としてとても分かりやすくお話しいただきました。
というか、分かりやすいと思わせる、技が大事。プレゼンテーション講習会でもやろうかと思います。みんな岩崎さんみたいに狭くなってしまうけど。

- 防災ユースフォーラムを何故始めたか？
NHKで防災に興味を持った。繋がりをもちたいと思った。
しかし繋がりが少なかった。繋がりを作ろうとした。
例えば、防災ボランティア協議会など大人（アクの強い）のコミュニティは有るが、ユースが気軽に参加できるモノが欲しかった。
- WS：防災活動を行う上で困っている事は？（一人一つ）
 - ＃ グループ単位で二つに絞る。
 - 専門家（啓発者）と住民との隔たりがある
 - 知識や経験がない
 - その他の活動との掛け持ちができない
 - 危機感が持てない（モチベーション）
 - 人材不足（特に後継者）
 - 人と人との繋がりが無い
- WS：対策やってる？
 - ＃ 判っちゃ居るけど、行動に移せない。
対策の現状は、素人も、防災マニアも同じ。
- 防災ユースが狙うモノ
 - 学び
 - ネットワーク
 - 新人、アイデア発掘（新たな発見）
 - そのための「交流」
- ユースとは結局なにか？（ヒント）
 - 年齢無関係
 - MLとしての繋がりが（自由な形）

2. 基調講演「防災ユースのこれまでと今後の展望」

- ・今後の展望
 - 新しい世代への繋がり (次世代、大人、子供)
 - 新しい地域への繋がり
 - 新たな形の繋がり案 (飲み会、勉強会、イベント手伝い)
- ・質問
 - 一番楽しかったことは？
 - 知らなかったヒト、コト、モノに出会うこと！
 - しんどかったのは、計画性のない防災業界に振り回されること。
(防災業界の体質、しょうがない。
負けないためにこっちも勢い重視でやるしかない。)



部長、吠える。



全員起立！



WS形式で進みます



各自の意見発表を交えつつ

3. 「遊んで学ぶ・建築防災と建物耐震化」

耐震の研究をしている研究室の大学院生お二人に、楽しく勉強出来る道具による説明（前半）と、道具を使ったプレゼン大会（後半）を実施していただきました。毎度毎度、天才です。

- ・研究紹介
建物の研究、地盤の研究、防災の研究。
専門的な基礎研究の下に、教材開発や啓発の実践が裏付けされている。
- ・耐震・免震・制震の違い（かみぐるる作成）
屋根の重さの違い
上下階の強さのバランスの違い
筋交いの有無の違い
によって、揺れ方がどのように変化するかを実験した。
- ・手回しぐるる、マウスでぐるる
建物の高さによって、揺れやすい地震の周期がある。
免震の構造、揺れを遮断する仕組み
制震の構造、揺れを収める仕組み
- ・ぐるるプレゼン大会
各グループが手回し、台車、綱引き、木造ぐるるそれぞれを担当し、啓発のシチュエーション設定と、道具の活用方法を考える。
→実際にプレゼンを行う。
HPの教材取り扱いページを参照しつつ、作戦を立てる。
 - 1：綱引きチーム
荒れた高校編
紙ぐるるを活用している。
周期に触れるべきだった。
 - 2：ぱらぱらチーム
おじいちゃんと同居編
時間内に要点を説明できた。
金物補強に触れるべきだった。

3. 「遊んで学ぶ」・建築防災と建物耐震化

3：台車チーム

新婚夫婦と建築技術士編
 独創的な説明だった。
 柱の挙動に触れるべきだった。

4：手回しチーム

悪徳業者と主婦編
 手順を追って上手く説明していた。
 もっといろいろなメニューを使うべきだった。



神童降臨



新星誕生



学びから実演へ



プレゼン大会は大盛り上がり

4. 「震災シミュレーションゲーム ～帰宅困難者編～」

実際に町中を歩いたWSの「体験」を元に、市民向けにゲーム化した教材を用いたセッションでした。

おどろく形式のゲームで、名駅から名古屋大学へ帰宅困難者として「歩く」。途中のマスではいろいろなイベントが起こり、ダメージを受けたり回復したりする（特に各地のコンビニを拠点とする）。ゲームを通じて、発災後町中を歩く上での、危険な要素と其の回避策を知る。というモノでした。



シミュレーションゲーム第五弾！



ちよくちよくダメージ受けます



だれが一番になるか！？



最後にゲーム開発の歩みを紹介

5. 「新潟における取り組みと現状」

新潟大学の皆様には、二日目からのご参加にも関わらず、ユースのニーズに非常にマッチした内容・テンションの発表を行っていただきました。

《第一部 活動紹介》

- ・メインの活動：ボランティアコーディネート
コーディネートとは？定義が曖昧なモノなのか。
- ・新潟的「コーディネート」の解釈
ニーズの紹介
学生サポート
プロジェクト企画・運営
ニーズ把握
→ 電話してボラセンより取得&現地の学生に聞き込み&出張
- ・ニーズ把握コント
大変と云うことが良く分かる
活動に関する5W1Hの把握
活動に関する保証や注意点などは、コーディネート役がリスク管理！
- ・大学からのお墨付き
社会的保証、信頼
名刺的な意味
リソースとしての活用
地域との接点
(デメリット)
お役所的？学生主導でないイメージ？
→ 大学のイメージ改革の範疇か
フットワークの鈍重化、自由度の低下
- ・現地との関わり方
新潟大は下越、中越からは一日の情報タイムラグがある。
現地から帰還した学生が情報源

5. 「新潟における取り組みと現状」

- ・震災の風化
新潟県内でも風化が。学生「まだやっているの？」
今年こそが復興元年 →復興とは何か？
- ・災害への備えとは（新潟的視点）
普段からの備え
人と人の繋がりを備える

Q 募集人数が達しなかった場合、それは派遣するのか？

A ノルマではない。基本的に足りなくても送る。

Q 社協、行政との関わりは？

A 発災後から出来た繋がりなので、現場からの広がり。NPOとか。

Q 他の大学との連携は？

A 最初は独自、最近は情報交換し始めた。

Q 写真を撮るときのガイドラインは？

A 人の顔を撮らないが原則。特に問題は起きていない。



大変丁寧な説明を頂きました



新潟人はコントがお好き？

5. 「新潟における取り組みと現状」

《第二部 座談会（紙芝居）》

- ・ 蜂（はっち）が中越を巡る。
仮設住宅について → 次の住まいが見つからない
復興について → 産業、村おこし、そのためのボランティア
ボランティアの活動について → チャリティバザー、写真展
- ・ 座談会
復興のプランニング：集会場での「地域をどうするか」の話し合い
外部の人を交えて、地域の再評価、産業活性のプランニング

中越の報道

- 県外ではほぼ無い。防災特番で絵を使うだけ。現状は判らない。
仮設の期限に関する報道。高齢者の問題。

中越の今を「どう伝えるか」

- 現地の人が情報源。
- 新潟の中が繋がろうという動き。
- 静岡とは経緯が違う。
- 神戸は5年後まで個々の活動。自然消滅。
- 今更繋がろうとしても、もう難しい。新潟が繋がるなら、今！

世代交代に向けて

- 本部立ち上げ時の人はもういない
- 復興活動のモチベーションが課題
- 中越内でのギャップ？温度差。
- 被害の局所性、単独での被災、被災地内での被災の格差



翔べ！ハッチ！！



全国から質問が尽きません

6. 「防災と社会福祉の考え方」

第四回にして、初の外部講師（大人講師）をお呼びすることに成功しました。というか、自分が聞きたかったからお呼びした訳なんです（職権乱用）。初めてこの分野のお話をお聞きになった方には、内容が重すぎたと思います。実は自分としては、それも狙ってやったことです。防災は簡単・楽しいだけではないということを知ってほしいのと、ヘビーユーザーのさらなる実カアップの為のセッションも必要だと考えたからです。苦しいと感じた方、済みませんでした（反省はしていない）。

- ・ 災害と福祉の関係
災害時の福祉に関する法律はない
あくまで特例的な措置が行われているに過ぎない
特別保証金を返せない、返さない（高齢）
- ・ 弱者
社会的弱者は災害弱者
10年経っても、生活は復活しない
国民年金の基礎年金だけで暮らす人は、支給額が27000円/月
→ 家賃数千円が限度
コミュニティが支える暮らし（古い家をそのまま安く借り、安く買い物を済ます）
復興支援住宅は20000円/月、家賃が10倍になると払えない
コミュニティに残ることが出来ない。コミュニティの崩壊
→ 弱者支援体制の崩壊
- ・ 対策
ここ10年、財政的な面から弱者の生活を見直そうという動き
戦後「公共の福祉」が考えられた時は「国民一般のモノ」だった福祉が
次第に「特別なモノ」へ。
→ 経済、財政の変化に伴い、社会保障は受益と負担の関係へ
「H13 社会保障改革大綱」：負担は分かち合うモノである
→ 現実には、「削れるところから削る」になっているのが現実
- ・ 改めて、災害（防災）と福祉
災害時にどうこうという話の以前に、社会福祉とは普段から重要なもの
今住みにくい人は災害時も苦しいし、だれしものがいつか苦しくなる可能性がある
→ 放っておくと徐々にみんなが住みにくくなっていってしまう
災害時を鑑み、普段からの社会福祉をどう守るかを考えたい

6. 「防災と社会福祉の考え方」

- ・ 社協と災害福祉
災害救援はどこ仕事でもない（法律上）
社協は仕事をやっているが、持ち出しになっている
→ もともと関わりのある人たちが、災害時になんとかしなきゃ！と頑張っている。
普段からフォローしているから、放っておけない。
「普段からの地域福祉を試されている」ととらえている
→ 災害ボラセンは社協以外でやっても良いのでは？
社協：名前が聞く、場所がとれる、ツケが効く、活用はすべき
 - ・ 社会福祉に関して
もっと沢山の人が関わるべき
普段から困っている人は沢山いる、普段から守るべき人が居る
普通にボランティアをして欲しい
災害が原因だとしても、福祉は日常に埋もれる。忘れられてしまう
被災者支援なんてものは、10年経ったって終わらない（常に社会にあるモノ）
 - ・ 防災活動の上での福祉に関して
地域の生活課題を認識しないとイケない
避難支援だけじゃないよ、支援者マップだけじゃないよ
実際には防災と福祉は、上手く繋がっていない（同義に出来ない）
防災に福祉の、福祉に防災のエッセンスを絡めて共に実施するのが、
普段から住みよい町をつくるのが、共通点では？
- Q 仮設の人は今も（もとのまちに）戻りたいのか？
A 戻る、というのは、心の中で懐かしむ「当時」に戻りたいのであって、
同じ地名の違う地域社会では意味がない。自己決定が重要。その人が、実質的にどちらが環境がよいか。
地域社会も人命と同じで、壊れたら完全には直せないモノ。であるからこそ減災することが重要。
三宅島では、帰りたいがらない子供もいた。時間が経つと、戻れなくなる。

6. 「防災と社会福祉の考え方」

・ 社協に関して基礎基礎の講義

社協：全国社協（霞ヶ関）、県社協、市町村社協、
法で設置される民間組織（縛られる）
災害系の仕事は定められていない
行政の足りない部分、住民の望むモノを提供、地域活動のプラットフォーム
「地域の推進」が目標

コンセプト

住民自己決定、普段の地域生活、普段の暮らしの幸せ＝ふ・く・し、を実現

機能（求められているもの）

住民の福祉活動の活性化、組織化

行政のNPOの橋渡し

社協は縦の繋がりはない。全国社協とはいえ、指示系統はない

半分が行政の出向、社協を分かっていない

いろいろなタイプがある（現実）

営利部門でばりばりやっているところ

割り切って補助金だけでやっているところ

社協と一括りに云っても、様々

神戸の旧かすみ町：住民全員から社協費を集め、入浴介助など先だって活動

都道府県レベルでは、役所からの出向が増加。←役所に逆らえない人

なぜ、社協が災害救援？

災害救援＝コミュニティワーク、業務の範疇やんけ！という思い

災害時の福祉救援活動

いろいろな団体と協力した、協働型災害ボランティアセンター

福祉サービス利用者へのサービス継続

社協版BCPが必要、ボラセンに人が取られている

7. 「静岡の防災の歩みと行政・大学・学生の連携」

若手、というほど若くもないのですが、等身大のキャラクターを活かして、震源地での無我夢中っぷりをご発表頂きました。やっぱり、知識だけではだめで、同じようなユーザーが近く(?)でこんなに頑張っているという姿を見ることで、皆さん自分と照らし合わせて新たに思うところが有ったと思います。

- ・ 学生、教職員、行政との連携
(ほぼ)専任職員やバックアップ体制の下に設立され、その上で自立的な運営を任されている。
- ・ 静岡大学が地域と密着 (特定の自治会に学生の8割が集中)
- ・ イベントでは、メンバーも参加して楽しむ
- ・ 静岡の、学生による、「ネットワーク」として
人に頼む、巻き込む、乗り込む

- # 個人的事情(内職)により、メモログと写真が極端に少なく済みません。
- # オフィシャル版では補強します。



石以外にも頑張ってる



地学専攻の描く日本

8. クロージングセッション

当初は時間が余ったら、発表者を並べてPDでもやろうかと思っていたのですが、思いの外、各セッションが盛りだくさんで押ししてしまった＆お腹一杯になってしまったため、倉田が簡単に二日間をまとめてお茶を濁しました（汗）

その時のPPTファイルを、付録に付けておきます。詳しくはコチラを。

今回、セッションだけ見れば「バランスが良かったかな。」と思います。

- ・ 基調講演（ユースの話）
毎回これが最後に来ているのが滑稽だったので、最初に持ってきました。
初参加の人のためでもあり、最後に持ってきて場が重くなるのを避けるためでもあり。
- ・ 耐震（ぶるる）
恐るべし名古屋ですから。
最強に安全パイでした。ウケルのが判っていたし。
- ・ 震災（ゲーム）
ガーディアンズさんとはギブアンドテイクな関係になりたくて。
ユースフォーラムと各団体の付き合い方の、モデルケースです。
- ・ 新潟（現地報告）
新潟の人と仲良くなりたかったのが第一。
災害を知らない東海の人に、それを見せたかったのが第二。
- ・ 福祉（現場の話）
先述の通り。玄人向けセッションというか、俺向けセッションというか。
ユースはいずれ、偉大な先輩に追いつかないといけない。（できないと干される）
- ・ 静岡（石の話？）
重い話のまま終わりにたくないからこのポジション。キャラ的にいじり甲斐があるし。
静太さんは優秀なのに、外に成果を発信しないから、こちらで一発かましてみました。

なにとはもあれ、皆様期待より3割り増しのクオリティでした。
ありがとうございました。

9. 愛知工業大学地域防災研究センター見学

センター長の先生直々にご案内いただいていたのでした(汗)



先生、休日にすみません...



倉田も関わっている緊急地震速報端末



ブルってきました。



一日目に勉強した免震です



私を支えているうちに逃げて！



ありがとうございました！

10. あとがき (倉田の所感・雑感)

第四回開催に当たっては、3本くらいのコンセプトがあったのかも知れません。

○運営の省カ化

これは、4つの意図からなります。

- 1: ユースフォーラムは大変じゃないよというアピール
何となく、ユースの運営が大変キウと思われている節があるので。
- 2: ポシヤれないが故の安全パイ
第四回フォーラムは一度お流れになっているので、今度は確実に。
- 3: 倉田が忙しい
忙しいのはみんな同じです。知ってます。御免なさい。
- 4: 仕事が面倒くさい
手を抜いて御免なさい。

○セッションのクオリティ向上

僕は大学出身の防災オタクなので(?)、自分で企画する上では、学びの本質を追求しようとして決めていました。なぜならユースは、

- ・遊ぶだけでは続かない
- ・若手の発表練習用セッションだけでは人が呼べない
- ・キモキモ勉強が足りない

と、いつも感じていたからです。

結果として、80点ぐらいにはなったかなと思っています。

○新たな戦友 (コアメンバ) の発掘

案のところで、毎回のフォーラム開催によって、直接コアメンバが増えることは有りませんでした。しかし、初回から徐々に、確実に神的なキャラクターが増えています。

(服部にんにんさん、西尾さん等)

なぜか。結局は、人同士の関わり、あるいはもっと微妙なタイミングによって、じつくりとコアメンバに成っていくのだと思います。ならば、コアメンバの友達の「コアメンバ候補」を呼ぶしかない。100人の参加者も大事だけど、将来のために1人のコアメンバを探したい。自分はキウ考えていました。

あと、望み通り綺麗な女の子がいっぱい来てくれました。うれしかったです。